

築地魚河岸三代目

2008(平成20)年6月8日鑑賞〈梅田ピカデリー〉

★★★



監督＝松原信吾／原作＝はしもとみつお、鍋島雅治『築地魚河岸三代目』(小学館刊)／出演＝大沢たかお／田中麗奈／伊原剛志／森口瑤子／柄本明／伊東四朗／マギー／大杉漣／佐野史郎(松竹配給／2008年日本映画／116分)

第2章

愛し方、愛され方はいろいろ

…… 35歳にして、エリートサラリーマンから「築地の男」に転身！ そんな見事な決断は旬太郎ならでは！ 日本人はこの手の人情モノが大好き！ したがって、寅さん、ハマちゃんに続いて旬ちゃんが『築地魚河岸三代目』シリーズの顔となれる可能性は大だが、第1作の出来が勝負！ 内憂(豊洲新市場への移転問題)、外患(魚介類の食糧自給率の低下)を抱えた今のニッポン、つい先日社長に就任した島耕作を見習って、旬太郎も「三代目」として築地のために頑張ろう！



また人気コミックが！ シリーズ化も決定！

本作の原作である『築地魚河岸三代目』は、小学館『ビッグコミック』に2000年5月から連載を開始し、現在単行本にして23巻まで発売されているロングラン人気コミックとのこと。サラリーマンの世界から築地市場に飛び込んできた熱血漢赤木旬太郎(大沢たかお)を主人公としたこのコミックは、築地市場で働く人々との心の触れ合いの中で少しずつ築地の男として成長していく旬太郎の姿を描く人情モノ。

魚介類を含む食糧自給率の下落が心配されている昨今のニッポン国、築地から豊洲新市場への移転が大問題となっている昨今のニッポン国、さらにワーキングプアが広がり、『蟹工船』が大人気となっている(?)昨今のニッポン国においては、コミックとはいえ若者の生き方に希望を与えるこんな前向きなコミックが映画化され、日本に広がるのはいいことかも……。

また、松竹では『釣りバカ』に続く人気シリーズに育てるべく、『築地魚河岸三代目』のシリーズ化が決定したとのことだから、今後の推移に注目！ もっとも、公開

翌日の日曜日における観客の入り（の少なさ）を見ていると、先行きは少し不安だが……。

35歳にしてこの決断は立派だが……

原作では匂太郎は大手銀行に勤める銀行マンだが、映画ではなぜか35歳にして課長に抜擢されたばかりの総合商社のエリートサラリーマン。今夜は、銀座で装飾デザイナーとして働いている恋人の明日香（田中麗奈）とのディナーの日。「今日こそプロポーズを！」と婚約指輪の準備までしていたのだが、匂太郎の引き立て役ながら匂太郎を便利屋のようにこき使う漆原常務（佐野史郎）から、「明日ゴルフだから、車を回しとけ！」との電話が……。

しかも、匂太郎が課長に昇進できたのは、仕事のイロハを教えてくれた温かい先輩金谷（大杉漣）を含む大規模なリストラ断行のための嫌われ役として期待されたため。職務上やむなく金谷に対してリストラを迫った匂太郎だが、「幸せってなあ、自分の気持ちに嘘つかないで生きることだって、この歳になってようやくわかったよ」「明日辞職願を出すよ」と穏やかに話す金谷を見て、遂に匂太郎はある決断を！

35歳にして、しかも課長に抜擢されたとたんの下したこの決断は立派だが、さて問題は、今ドキの多くの若者に匂太郎のような決断ができるかどうかということ。若くして課長に抜擢された匂太郎は、頭がいいかどうかは別として、何ゴトにも前向きでやる気だけは抜群。彼が金谷にかわいがられたのはそのためだが、そんな匂太郎なら35歳から全く別の世界に飛び込んでいっても、持ち前の熱意で状況を切り開いていける可能性が大。しかし、もしあなたが何ゴトも安全に、すべてにおいて大過なく……とばかり願っているタイプだとしたら、匂太郎のような決断はととてもムリ……？

八重洲、銀座、築地、水天宮は徒歩圏内！

私は2006年6月から一部上場企業であるコンピューターのオービックの社外監査役に就任したため、月1度は必ず役員会出席のために東京に出張することになった。その他事件関係でも、東京や横浜への出張が時々。そんな中、八重洲と銀座はだいぶ土地カンがついてきたし、築地市場がすぐ近くにあることや、おいしくて安い市場寿司の場所なども少しずつ知ることになった。さらに、水天宮のすぐ近くにある某ホテルのフィットネスクラブに2回行ったが、地図を調べるとそこも少し遠いが、私にとっては

徒歩圏内！

築地市場には、テレビによく出演しているテリー伊藤の実家が経営している玉子焼の店などを含めてたくさんの店があるが、大阪の中央卸売市場が大好きだった私は、東京の築地市場も大好き。今度出張した時は、時間をかけて市場内をくまなく歩き回り、匂太郎が魚辰でちゃんと頑張っているかどうか確認しなくては……？

恋人に隠しゴトは……？

築地で働く男たちの心意気を描くだけでは、女性ファンの注目を集めるのはムリ。やはり、そこには築地にふさわしい(?)ラブストーリーが不可欠だ。ところが、映画の冒頭に登場する高級レストランにおける、エリートサラリーマン匂太郎と銀座の装飾デザイナー明日香の語らいを観ていると、2人には築地のつの字も関係なさそう……。

金谷へのリストラ勧告で精根尽き果てた匂太郎がある朝、Tシャツにジーパン、ゴム長姿で自転車をこぐ明日香を偶然見かけたところから、この映画の実質的な物語がスタートすることに……。必死にそれを追いかけて行った匂太郎がたどり着いたのは、魚辰で働いている明日香の姿。つまり、銀座で働くファッションブルで近代的な娘だと思っていた明日香の実家は、歩いて10～15分程の距離にある築地市場内の仲卸の名店・魚辰だったわけだ。

今彼女がそこに立っているのは、父親の徳三郎(伊東四朗)が膝の手術のため入院することになり、人手が手薄になったため退院まで手伝うためだが、恋人が築地の仲卸商の娘だったとは……？ また、それを匂太郎が知らなかったとは……？ 明日香にしてみれば、別にそれを隠していたわけではなく、ケンカ別れして飛び出したいきさつを匂太郎に説明するのが面倒だっただけ……？ しかし、明日香も既に28歳。婚約指輪を貰おうかという恋人に対して、きちんと自分の身の上を説明していなかったのはいかがなもの。さらに、雅(マギー)、拓也(荒川良々)、エリ(江口のり子)らから「兄貴」と慕われており、また徳三郎が「何としても三代目に！」と目をかけている英二(伊原剛志)が明日香の結婚相手として前々から決まっていたとは……？

恋人に隠しゴトが良くないのは当然だが、明日香はそんな大事なコトまで匂太郎に隠していたの……？

🎬 『寅さん』『釣りバカ』との共通点は……？

2008年夏に公開される『釣りバカ日誌19』の舞台は大分県佐伯市、ヒロインは常盤貴子。今や『釣りバカ』シリーズは、シリーズ全49作を誇る日本の国民映画『男はつらいよ』に次ぐ松竹のドル箱シリーズとなっている。そんな松竹の系譜を受け継ぐ『築地魚河岸三代目』シリーズが、『男はつらいよ』『釣りバカ』シリーズと共通するのは、登場人物がいい奴ばかりだということ。

ちょっとワルぶった男は、匂太郎の上司の漆原常務くらい。明日香の父親徳三郎のケンカ友達で、リハビリ中の徳三郎とプールの中で大激闘をくり広げるなど、あらゆるシーンで徳三郎とバトルをくり広げる鮎屋・真田の主人真田正治郎（柄本明）も根は単純でいい人。つまり、築地市場で働いている人たちは、みんな決して頭は良くないし、千秋（森口瑤子）の熱い想いに気づかない英二のようなニブく鈍感な男たちばかりだが、大切なことは寅さんやハマちゃんと同じように、みんな単純でいい奴ばかりだということ。シリーズが長く続き、日本人から長く愛され楽しめるためには、主人公はもちろん、登場人物がそんなキャラばかりであることが絶対的な条件。そんな目で見ると、『築地魚河岸三代目』の主人公匂太郎をはじめとして、その周りを固める人物のキャラはその条件を満たした奴ばかりだ。

第1作でたちまち匂太郎と結婚してしまった明日香は、魚辰での三代目就任を目指して頑張り始めた匂太郎を見習って、自分も銀座の装飾デザイナーの職を投げうち、魚辰のために頑張るはずだから、第2のさくら、第2のみち子となる可能性大。そして倍賞千恵子や浅田美代子と違って、田中麗奈は1980年生まれの若手有望株だから、今後の成長可能性は十分。松竹はそんな長い目で匂太郎と明日香のコンビを考え、長期シリーズを目指してみれば……？

もっとも、明日香がさくら役、みち子役のようにレギュラー出演となれば、2作目以降は別の「マドンナ」役を設定しなければならないが、それは明日香の父親徳三郎が向島の芸者の魅力に負けた前例を踏まえ、匂太郎に少し浮気させてみれば面白いかも……？

🎬 絡まった糸が見事に収束！

私はこの映画は単純で典型的な人情小話だと思っていたが、意外に複雑なストーリー

ーを持っている。それは、①何ゴトにも思い込みが激しく、何ゴトも自分1人で決定し実行してしまう旬太郎が折にふれてトンチンカンな行動に走ること、②築地生まれの明日香が、旬太郎にも自分の身の上を話していなかったこと、③魚辰の三代目と囑望されている英二が、周りが期待するほどお嬢さん＝明日香に対して結婚のアプローチをしないこと、④小料理屋「ちあき」を営んでいる千秋が英二に対して熱い想いを寄せていることは明らかなのに、どうも英二はそれに気づいていないこと、等によって加速されるのだが、それらはすべて説明不足と勝手な思い込みによる誤解の集積……。ところが、この映画ではラストに向かってこれらの絡まった糸が見事に収束していく。

その第1は、英二と千秋の結婚。英二に自分の気持が伝わらないと諦めた千秋は、リーゼント男、片岡青果の若旦那片岡十四郎（鈴木一真）からの求婚を1度は受け入れたものの、旬太郎と明日香に背中を押され、『卒業』（67年）まがいの行動によって、遂に2人は結ばれることに。

そして第2は、もちろん明日香が旬太郎との結婚を承諾し、徳三郎もそれを認めたこと。すると、魚辰の三代目は……？ 徳三郎は「それは絶対英二に！」と決めていたはずだから、必然的に旬太郎ははみ出されることに……？ そこらあたりの権力争い(?)の収束のつけ方が『築地魚河岸三代目』第1作の見どころだが、それは同時に第2作、第3作の見どころにも繋がっていくのでは……？

2008(平成20)年6月10日記